

定例教育委員会会議録

(令和5年1月6日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和5年1月6日（金）

14時30分～

場 所 岡谷市役所6階605会議室

署名委員 草間職務代理者、小平教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 川岸地区における幼保小中がつながる新たな学びの環境づくりについて

【資料 No.1】（教育総務課）

2. 学校施設のバリアフリー化（エレベーター設置等）に関する基本方針（案）について

【資料 No.2】（教育総務課）

○ 報 告

1. 年度末・新年度の行事について【資料 No.3】

（教育総務課）

2. 令和5年 二十歳を祝う会について【資料 No.4】

（生涯学習課）

○ そ の 他

・行事等について（各課）

・その他

【次回開催予定】令和5年2月9日（木）9時30分～ 岡谷市役所2階 202会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 高木 千奈美、教育委員 太田 博久、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
教育総務課主査 新村 尚志

<会議録>

○開 会

岩本教育長：

ただいまより令和４年度１月定例教育委員会を始めたいと思います。
本日の署名委員は草間職務代理者と小平教育委員にお願いしたいと思っています。

○教育長報告

岩本教育長：

新年を迎え、初めての教育委員会となります。本年もよろしくお願いいたします。

今年の十二支は兎年、干支は癸卯（みずのとう）の年になります。

この癸卯には「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年」という意味があるそうです。何か明るい兆しを感じているところがあります。皆さまにとっても新年が希望に満ちた飛躍の年となりますようお祈りしております。

さて、コロナ禍で迎える３度目の年末年始となりましたが、初詣をはじめ、多くの人の出入りがあったと思います。県内の感染者は依然として高止まりが続いており、注意を怠ることはできませんが、今年はウィズコロナで新春を迎えられたのではないのでしょうか。

小中学校も本日から３学期が始まっております。おかげ様でこの休みは大きな事故等もなく、多くの子どもたちが無事に始業式を迎えられました。また、中学３年生にとっては、高校受験を迎え、大事な時期となりますが、コロナに負けず、無事に受験を乗り切って欲しいと願っております。

それでは、本日も何点か報告させていただきます。最初に教育総務課関係についてであります。

長地小学校伝統の版画カレンダーについてであります。

６年生が取り組む版画カレンダーは５０年以上続く長地小学校の伝統であり、子どもたちは学校生活の中で思い出に残った一場面を版画カレンダーにしています。今年も１２月２１日（水）に代表児童が市教委に思いの込められた作品を届けてくれました。

子どもたちの話では、今年は学校の１５０周年の記念行事と重なり、なかなか時間がとれず、大変苦労したと聞いております。

どれも力作ぞろいで、このカレンダーを見るたびに、子どもたちの成長を感じることができ、大変、嬉しく思っております。

岩本教育長：

次に今年度の「NHK全国学校音楽コンクール」及び「SBCこども音楽コンクール」に出場した岡谷田中小学校の合唱団が県予選を通過し、12月3日（土）の「こども音楽コンクール」の東日本大会、小学校の合唱部門において、栄えある最優秀賞を受賞しました。

発表曲の「だいだらぼっちの春」は、新年祝賀式でも映像を流していただきましたが、子どもたちの生き生きとした姿と、素晴らしい歌声に魅了されたところでございます。

1月22日（日）には、東京のTBS放送センターで開かれる「こども音楽コンクール」の全国大会にも出場し、益々の活躍に期待をしております。

つづきまして、生涯学習課から2点報告いたします。

まず、明後日1月8日（日）に開催する「二十歳を祝う会」についてであります。

後ほど、最終の報告があると思いますが、現在の申込者数は、375名で参加率は65.8%となっております。昨年より若干上回っており、まだまだ申込が来ているので、さらに増えるのではないかと思います。

二十歳という節目の年を市全体で祝うとともに、岡谷の魅力を感じてもらい、心に残る式典にしてみたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

次に、旧林家住宅の修繕工事について、報告させていただきます。

旧林家住宅の主家下屋（おもやげや）と離れ浴室棟の屋根瓦の劣化が進んだことから6月から、屋根の葺き替え工事を行ってまいりました。

このほど、工事が終了し、12月19日（月）に竣工検査が行われました。工事費用については、JRの「地方文化事業支援」の補助金を活用しております。

また、「文化芸術振興費補助金」を活用して行った、旧林家住宅の外トイレの洋式化等改修工事についても、12月27日（火）に竣工検査が行われ、コロナ禍においても、来館者が安心して気持ちよく利用いただける環境が整ったと思います。

文化財は市民の大切な財産でもありますので、今後も定期的に修繕を行いながら後世に残していきたいと考えております。

岩本教育長：

最後にスポーツ振興課関連を報告させていただきます。

初めに、2028年に岡谷市で予定している国民スポーツ大会卓球競技の開催に向けて、昨年の12月に日本卓球協会による正規視察が行われました。

競技会場であるスワンドームのほか、施設全体の視察が行われ、競技運営にかかる現状や会場の設備などを確認していただきました。

視察員からは、具体的かつ丁寧なアドバイスをいただき、開催準備に向けての第1歩につながったと感じているところであります。

開催年には、来場される皆様の気持ちよくお迎えし、素晴らしい大会が開催できるよう、施設環境を整えてまいりたいと考えております。

次に「第34回全国高等学校駅伝競走大会」について、報告させていただきます。

12月25日（日）に京都市で開催されました全国高等学校駅伝競走大会に長野県代表として出場した長野東高校が初優勝を飾りました。

大会では、岡谷市出身の名和 夏乃子選手が、第1区を2年生ながら区間4位の走りで流れをつくり、優勝に貢献をいたしました。

庁舎市民ロビーには、横断幕を設置して名和選手の活躍を祝福するとともに、今後のさらなる活躍を期待しているところであります。

次に、東大阪市の花園ラグビー場で行われております「第102回全国高校ラグビー大会」に、長野県代表として出場した岡谷工業高校の大会結果を報告させていただきます。

2年ぶり32回目の全国大会出場となった岡工は12月28日（水）に新潟県代表の開志国際高校と対戦しました。

開始早々に先制し、勢いに乗った岡工でありましたが、その後は相手の攻撃の流れを断ち切ることができず、2018年以来の初戦突破とはなりませんでした。

今大会の経験を活かし、来年も花園出場を目指して頑張ってもらいたいと思っています。

最後に「第44回岡谷市民元旦マラソン」について報告をさせていただきます。

2023年元日の早朝は、新年の幕開けにふさわしい穏やかな青空が広がり、恒例の元旦マラソンに約150人が新春の走り初めを行いました。

今年も市民総合体育館を発着点とし、子どもから高齢者までが、光輝く湖面や湖畔の景色を楽しみながら、思い思いのペースで走り抜いておりました。

岩本教育長： また、長野東高校の名和 夏乃子 選手も帰省した際に参加され、岡谷市陸上競技協会から高校駅伝での活躍を紹介する場面もあり、今年の抱負を胸に始動しておりました。

参加された皆さんも、気持ちを新たに心地よい汗を流しながら、さわやかな新年のスタートが切れたのではないかと感じているところであります。私からは以上であります。

ただ今、報告した内容に関して、教育委員の皆様から何か質問はございますか。それでは、本日の議事に入ります。

○議 題

1. 川岸地区における幼保小中がつながる新たな学びの環境づくりについて（教育総務課）

<資料1に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： 委員の皆さんが感じたところからで構いませんので、ご質問やご意見をいただきたいと思います。

最終的にはいただいた意見を元に事務局でさらに案を練ってまいりたいと思います。

太田教育委員： 先月の定例教育委員会を欠席となりまして、申し訳ありませんでした。先月の議事録も拝見をした上で、私自身もこの構想案については基本的に賛成の気持ちであります。それを前提とした上でお聞きしたいのですが、これを実際に実現していくにあたって、まずは川岸小学校と岡谷西部中学校の接続を前提にしたハードの整備というところから入り、最終的には幼保小連携というところまで繋げていくという段取りになっていると想像しています。実際にそれを実行するまでの間にどのような意思決定や情報開示などのプロセスを経ていくのかをお伺いしたいと思っています。

先ほど冒頭にも申し上げたように私も基本的に賛成であり、この案を見せていただき、非常によくできた案で説得力もあります。幼保小中の連携をして、最終的に「義務教育学校」という形になっていくのかどうかは別として、岡谷市が教育分野で大きなチャレンジをしていくということがとてもよくわかる内容になっていると思います。

逆に誤解を恐れずに申し上げると、余りにも素晴らしい内容で、期待ばかりが膨らんでしまうので、デメリットとして、ハード面ではなく、ソフト面で課題があるのか、そういったところが私も想像がつかないところがあります。

デメリットとして、例えば、人間関係が固定化されてしまうということが懸念されるかと思います。特にいじめ、これは起こって欲しくないわけですが、残念ながら起きてしまった場合に人間関係の固定というものがデメリットになるのではないかと、今のところはそのぐらいしか思いつきません。

太田教育委員： デメリットや対策すべき課題が出てこない状態でこのまま進んでしまった場合に怖いというか、とても危機感を覚えるので、もちろん議会で議論することになると思いますが、その前段階で市民の皆さんに案を提示したり、いろんな方の意見をいただく機会を設け、課題を抽出して、ブラッシュアップをしていく機会のようなものがあるのかをお伺いしたいと思います。

事務局(両角)： 最初に大きな見通しですが、例えば、学校づくりでとらえると、今ある小学校、中学校は独立した運営を何年も続けてきた歴史ある学校でございますが、新しい校舎として、小中一貫校或いは義務教育学校に移行していきましょうというのは、まさに学校の根幹にあるスタイルを変えていくということになるかと思います。

最終の方向づけというのはこれからのステージになってまいりますが、いずれかの時期に方針が決定した以降に、今後取り組んでいくことをイメージしていただければと思います。

前回もお話しました義務教育学校への移行に取り組んできた先進地の地域が県内にもありますが、それらを参考にしますとまずはカリキュラム自体を一つにしていくということ、これは学校の運営計画の根幹の部分であり、これを一つの教育方針のもとで作りに上げていくことになります。

要は中身をどうするかという問題、一つの学校を新しく作り込んでいくという取り組みが一番大きなハードルになってくるとというのが想像できます。

よって、施設整備をやれば終わりというようなものではなく、一体型の校舎に本日説明した施設間を繋いでいくものを作っていくことになれば、そこに入る新しい学校の中身の部分を作り込む作業があります。これも相当な期間をかけて、先生方がみずから作り上げていかなければならないので、我々市職員の人間にも手を出せないような取り組みになってくると思います。

それから、今回イメージのところでお示しました、その敷地内には県内でも事例がない認定こども園を設置するということを市当局でも同時に進めておりますので、学校単位だけではない検討課題というものがあり、一緒に調整していかなければいけない取り組みになるかと思います。

義務教育学校になった時のメリット・デメリットの大きな部分は今日の資料の中にも少し載せてありますが、一番は同じ地域で同じ子どもたちが幼少期から中学卒業まで一緒に過ごすという環境で大丈夫なのかということかと思います。

今回の検討に至った前提は全国の多くの地域で人の数、特に子どもの数が減少しているということであります。これはもう避けて通れない現実として、この中で子育てや教育をどのように作っていくかというのがミッションになってくると思います。

事務局(両角)： 仮に方策がなかったとしても、川岸地区には当然、学校を存続させていきたいですし、保育園も必要になってくると思います。この人口減少社会の中で地域に支えられるような魅力ある環境をどうやって整えていくかというのがまずは大前提だと思います。

当然、同じ顔ぶれがずっと続くというのは心配もあろうかと思いますが、だからこそ、資料に書いてあるピア・サポートというものが大事になってくると思います。

要は縦割りでそうした困難さを解決できるよう、また、そのような状況でも多様な人間関係を保てるよう、デメリットの部分を経験に変えられるようなことを少しずつでも積み重ねていくことが解決の道になるというイメージを持っております。私からは以上ですが、濱先生から何かございますか。

事務局(濱)： 今、参事が申し上げたことがほぼ全てかと思いますが、人間関係の固定化を防ぐためにという点でお答えすると、小学生の子どもたちが中学校の先生方とも関係を持てる、逆に中学生の生徒たちが小学校の先生たちと関係を持て、さらに幼保からの12年間のまとまりの中で縦の人間関係を作ることができます。現状でも川岸小学校のお子さんは全て岡谷西部中学校に進学していますので、すでに固定化されているものを縦にさらに広げることが出来て、大人と人間関係を築くことができるというメリットが生まれるのではないかと考えています。

岩本教育長： 人間関係の固定化というのは確かに大きな課題ですが、実はもうすでにいろいろ学校で心配されているわけですね。特に単級の学校などは川岸地区以上にそういったことで大きな悩みとして解決に向けて、日々努めていただいております。岡谷市全体で人間関係というものの、人間関係力というものをどう育てていったらいいか、実はもう数年前から取り組んできております。岡谷市では、自立支援委員会を立ち上げて、信州大学の先生に講演をしていただいたり、実際に師範授業をしていただいたり、子どもたちにそういった力を何とか醸成していこうと取り組んでおります。

今、太田教育委員さんが言われたことは、確かに一つの課題であると思います。また、当然、課題はこれからもいろいろと出てきます。

その課題を大事にしながら、一つ一つ丁寧に、課題に対してどういう手だてを講じていったらいいか、洗い出して位置付けていくことが良い学校になっていく元になると考えております。

先生方の意識として、ずっと前から小中の連携ということをやっています。すでに小中一貫に向けた課題克服のための準備ということについて、他市町村よりもかなり進んでいるということでご理解いただきたいと思います。

また、今回の認定こども園が義務教育学校にくっついているというのは全国でも恐らく、例はそうないと思います。調べても多分出てこないのではないかと思います。そういった意味で、初めての大きなプロジェクトをやっていくときには、当然課題も出てくると思いますので、みんなでそう

岩本教育長： いった点を大事に考えて、課題をいかに生かしつつやっていくか、それを考えながら進めてまいりたいと思います。

小平教育委員： 何回か説明をいただいて、毎回、素晴らしい内容だと思います。太田教育委員が言うように、確かに一番気になるのは人間の固定化ですが、すでに固定化が起きているということ、それが問題として認識されており、それについて上下で人間関係が広がるということを濱先生がおっしゃってくれたのでイメージがすごく湧きました。

おかや絹結プログラムについて、先生方が橋渡しをして、1人の子どもに対し、大勢の先生が評価して、どのようにその子が良くなっていくかを見ていくという内容だったと思いますが、今回のことがきっかけになって、そういうこともより先生方がしっかり意識して、確実に良くなっていくというイメージを今持っています。

また、教育長先生が今おっしゃったように、課題が出てくることを恐れずに、どう取り組むかということが本当に大事だと思いますので、前向きに教育委員も一体になって、皆さんと協力してやっていきたいと思っています。

最後に、スケジュール的なこととどこまでが決定事項なのかを教えてくださいたいと思います。

事務局(両角)： 説明させていただいたとおり、学校敷地内に認定こども園を併設するという大きな計画があるというところだと思います。市当局の子ども課保育担当で今年度、保育園の中期整備計画を策定するというのが同時に動いております。そこと折り合いをつけながら、2月9日(木)に開催予定の岡谷市総合教育会議という市と教育委員会の協議・調整の場がございますので、これまでに積み重ねてきたものを一つの構想のようなものにしまして、会議の中で協議いただき、正式な構想として決定させていただきたいという段取りで考えています。

スケジュール的な部分で、施設の整備にかかる年数がどのぐらいかかるか、あくまで目安を申し上げます。今回の川岸小学校を整備する場合という限定的なものではなく、一般的な施設整備にかかるスケジュールとしてとらえてください。

大きな建物の改修をしていくときには、まずは基本的な設計である基本設計を行います。その後に具体的に工事をするための詳細な図面を作る実施設計というものを行います。それに1年ないしは2年ぐらいかかります。

そのあとに工事をして、岡谷東部中学校のような改修を実施するのに2年間ぐらいかけてやりますので、標準的に見積もっても、一つの学校施設を改修し、大きな仕掛けでやっていこうとなると4年から5年ぐらいかかる大事業になってきます。今回は川岸小学校の大規模改修をやっていきたいということになりますので、課題へ対応していくために付加価値として、義務教育学校をどう実現していくか、同じ敷地に認定こども園ができるのであれば、どういう作りをしていこうかという流れに

- 事務局(両角)：** 繋がっていきますので、ある程度の期間がかかるものと思います。
その間にソフトの部分として、学校種を変えていまいしょうという判断になれば、それを合わせていく、もしくは段階的にやっていくことになります。岡谷小の統合のような流れと同じイメージになると思います。
- 小平教育委員：** それでは、2月の総合教育会議が決定の場ということですか。
- 事務局(両角)：** 市と教育委員会で、それぞれの考え方を確認し合いたいという協議・調整の場ですので、そこで意見をいただいて、調整するという場になろうかと思います。
- 小平教育委員：** 参考資料に保育園の集約方法として、3案出ているのですが、これはまだ決まっていないということですか。
- 事務局(両角)：** これについては、教育委員会で議論したものではなく、現在、西部地区にある4つの保育園について、子どもの数の減少に伴い、機能を維持していくために集約化しなければいけないという課題があり、子ども課の審議会において、保育園の集約先として、川岸小学校の敷地の中にしたいという案が協議され、了承いただいたという結果になります。
- 小平教育委員：** これはほぼ決まりということですか。
- 事務局(両角)：** そういうことになります
- 岩本教育長：** 一步一步着実に進んでいきたいと思っています。そして、その時に教育委員会だけではなく、市長部局と両輪のようなつもりで一緒に歩いていくことがやはり大事だと思います。他にご意見ありますでしょうか。
- 草間職務代理者：** 15年間同じ場所で教育を行うというのは私自身も長野県ではあまり聞いたことがないです。同じ敷地内で認定こども園にするということは保育と教育を行って、卒園した子どもたちが義務教育学校へ上がってくるわけですね。川岸地区の問題というよりは、岡谷市全体の教育にも関わってくると思います。認定こども園について、教育方針に賛同する保護者が多い場合に川岸地区以外から通わせたいという方もたくさん出てくる可能性が十分あると思います。そういった他地区の子どもたちが認定こども園を卒業して、そのまま小学校へ上がることができるのか、それとも小学校一年生の時に募集をして、他地区からも受入れを行うのか、その辺がよく見えないんですね。
- いわゆる小中一貫校になるわけですので、認定こども園を出た子どもたちは、おそらくそのまま川岸の小学校に行きたいと思います。
- その場合に小学校1年の時に、新たに児童を募集するのか、中学校の場合は中学1年の時に募集をするのか、その辺をはっきり決めておかないと、人気があって、皆が子どもたちを新しい学校へ行かせようとなった場合に、教室が足りなくなるという問題も出てくるのではないかと思います。
- 太田教育委員さんが心配していたこととは逆の心配もしないといけないのではないかと思います。

草間職務代理者： 今、本当に小学生、中学生が市外の学校に行っていますよね。0歳から15年間を同じところで過ごすことができる学校、教育施設というものは全国的にも珍しく非常に素晴らしいものだと思いますので、内容を充実させて、ぜひ成功させていただきたいと思います。

ただし、一番恐れているのは、新しい学校の教育方針が素晴らしいから通学距離は遠いけど、どうしても通わせたいので、認定こども園を卒園したら、本来は他地区の小学校だったけど、どうしてもそのまま行かせたいという事例が出てくることだと考えています。

子ども課で検討されたと思うのですが、保育園ではなく、認定こども園にされた理由は何かあるのでしょうか。義務教育学校に合わせたということでしょうか。

事務局(両角)： ここで協議すべき課題ではないのですが、知り得ている範囲でお答えさせていただきます。

文部科学省の動きの中で、5歳からの教育を手厚くしていきましようという「幼保小のかけ橋プログラム」というものがあります。内容は岡谷市で作った「おかや絹結プログラム」のようなもので、それぞれの地域で幼児教育と小学校とを円滑に接続していくためのプログラムを国の主導で実施していきましようというものになります。そこには、5歳児からの教育という視点を保育にも繋げて大事にしていこうという動きがあって、教育というのは小中学校での教育のみならず、いろんな経験の全てが学びなんです。よって、新しい学校を作っていくからということではなく、保育園でも一人一人の子どもたちを同じ方針で育てていくにあたり、教育の学びの視点というものが必要になってきたということで認定こども園に移行するという結論に至ったものだと思います。

岩本教育長： 現在、東堀保育園が認定こども園ですよね。大変人気があって、かなり倍率が高いと聞いています。

なぜそんなに皆さんが行きたがるのかと言えば、やはり、そこに魅力があるのだと思います。今、草間職務代理者が言われた件ですが、どの地域からも川岸小学校へ行っても良いのかというと、やはりそれは全体を見通しながら決めていく必要があります。

事務局(両角)： 具体的なことは当然、これから検討していく課題になってこようかと思います。ただし、前例というところでは、諏訪地域にも諏訪清陵高等学校附属の中学校が開設されております。

それ以前においては、中学校は全て通学区域に集約しているのが普通だった時代でしたが、今や選択によって、行きたい学校へ行けるのが当たり前の時代になってきていますので、もしこの川岸地区に作る新たな教育基盤の学校について、市内のどこからでも入学できるようにし、付加価値がついて、児童生徒が大勢来るようなことがあれば、本当に嬉しいことだと思います。そうなれば、必要な教室を構えていくことになると思います。

岩本教育長： その辺はとても大事な課題の一つですので、じっくり考え、皆さんともご相談しながら、決めていきたいと思っております。

藤森教育委員： 前回の定例教育委員会の時も、先ほど草間職務代理者がおっしゃったようなことに関連した質問をさせていただきましたので、私も川岸地区で、まさに川岸小学校、岡谷西部中学校で9年間学んだ者ですので、そのような立場で、今日はソフト的な部分ではなく、ハード的な部分の意見を述べさせていただきますと思います。

資料 No.1-①でお示しいただいた図がとても分かり易くて、川岸小学校と西部中学校というのは西部中学校のグラウンドを挟んで校舎が向き合っていて、小学校の時には勉強しながら、外を見ると西部中学校の建物が見えて、中学生のお兄さん、お姉さんがグラウンドで何かをやっているのが見えたものですから、自分も将来、この中学校に行くのだなというのを感じていました。

あの頃は岡谷小学校からも新しい子どもたちが西部中学校に来て、一緒に学ぶことがあったのですが、今はもう名実ともに川岸小学校で学んだ子どもが基本的に西部中学校に行くという流れが出来ている中で、資料のレイアウトを見ると、西部中学校が出来た時から何か、将来こういうことを想定していたのではないか思えるぐらい、ハード面で理想的な立地だと思いました。

それに加えて、川岸小学校のグラウンド、今は低学年の子どもたちが勉強しているところだと思うのですが、そこに認定こども園が入ってくるわけですね。今後、校舎の改修や先ほどお話があった給食室、プールなどいろいろ細かい問題はあると思いますが、動線から見てもこれは必然的な流れだろうと私自身は思っています。

ハード的な環境としては非常に整っていますので、そこにこういった形でソフトを充実させていくか、これから大いに皆さんと議論していきたいと思っています。

僕自身が経験したことですが、何年か前に岡谷西部中学校の創立60周年がありまして、その記念行事で植松努先生という個人でロケットの打ち上げをやっている方が講演に来られて、実際に西部中学校の校庭で小型ロケットの打ち上げの実演をいただきました。

その時、実行委員会の皆さんが川岸小学校にも声を掛けていただいて、西部中学校の行事でしたが、あのグラウンドで川岸小学校の子ども達も一緒に参加して、みんなで一体になってやったという記憶があり、いろんな可能性があるというのを肌で感じた一例でありました。

もともと今も交流しているところがあるので、そこを一つの形として一貫、まさに一つ貫いていくような教育が出来てくるとかなり魅力的な学校になっていくのではないかと思います。

イメージだけの話になってしまい、申し訳ないですが、感じたことを意見として述べさせていただきました。

高木教育委員： 小中一貫だけでなく、幼保連携型の認定こども園がそこに設置されるということで、これが実現すれば、本当に夢のような地域になるし、全国からの問い合わせも来るような先進的な地域になるのではないかと思います。

認定こども園が隣にあるというだけでなく、それが学校と接続されていくということで、いただいた資料の中にも、従来の保育機能を大切に受け継ぐとあります。今の保護者の方たちがどういう保育を望んでおられるのか、私には分かりませんが、小中連携の教育課程にも繋がる教育が認定こども園でもなされていく必要があるのか、保育だけではなくそこに教育の要素が入っていくということで教育委員会もその認定こども園の設置に関わっていくのか、線引きが難しいとは思いますが、そういったことも考えていく必要があるだろうと思います。

この繋がるというのが、どんな形で繋がって、どう交流していくのか、ハード面の施設整備にも大きく影響してくると思いますので、何を繋げたいのか、何を交流したいのかをはっきりさせていく必要があると思います。

岡谷市全体がそうですが、特にこの西部地区は地域の方々が子どもたちを地域で育ててくださって、本当に一生懸命子どもたちを見てくださっているのですが、西部中の同窓会は他の学校よりも大きくてしっかり子どもたちを見てくださり、そういった団体の人たちがすごく力になってくれると思うので、先ほど草間職務代理者もおっしゃったようにこの西部地区という地域だけで考えるのではなく、地域というものをもっと大きく見て、岡谷市、あるいは岡谷市を超えたところからいろんな意見をいただきながら、夢のある楽しい幼保小中の施設にしていけることが出来たら良いと思います。

太田教育委員： 幼保を含めるとなると、皆さんからお話ありましたが、川岸地区の地域の中での位置付けというものから段々と地域外のこともいろいろと出てくると思います。今、高木教育委員がおっしゃったことで、それこそ今はどの学校でもやっているコミュニティ・スクールのようなものもソフトだけでなく、ハードも含め、視野に入ってくると思います。

そうなると川岸公民館の話も出てきますし、そういった機能もここへ一緒に持ってくることで教育現場としての学校ということを超えたところでもっと大きな可能性を見出すことが出来るのではないかという話も出てくると思います。

もちろん出来ること、出来ないこといろいろありますが、その辺もしっかり見通した上で教育委員としてもいろいろ検討していきたいし、より良い可能性を探っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

岩本教育長： それぞれの委員さんから本当に貴重なご意見をいただきました。

私も最後に一言申し上げて終わりにしたいと思います。

この議題に関しては先ほど参事からもありましたが、定例教育委員会

岩本教育長： で11月から継続的に取り上げてまいりました。教育委員会としましては、次の学校施設改修に合わせ、川岸小学校と西部中学校をつなぐことで小中一貫教育を実践する義務教育学校への移行を図ること、さらには校地内に認定こども園を併設し、幼保小中が繋がる新たな育ちと学びの環境づくりに繋がるのではないかと考えているところであります。

本日は、大きな方向性や考え方を示させていただいたところであります。今後は、これまで積み重ねてきた基本的な考え等を改めて整理した上で、学校と園の建設に関する一つの構想案としてまとめて、2月に開催予定の岡谷市総合教育会議において、市長さんとの協議、調整をお願いしたいと思っております。

これからもぜひ皆さんから積極的にご意見をちょうだいし、一緒になって取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは議題の1につきましては以上とさせていただきます。

つづきまして、議題2「学校施設のバリアフリー化（エレベーター設置等）に関する基本方針（案）について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

2. 学校施設のバリアフリー化（エレベーター設置等）に関する基本方針（案）について

（教育総務課）

<資料2に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： ただいまの説明や、或いは基本方針案が示されておりますので、何かご質問ご意見がありましたらお願いいたします。

太田教育委員： 基本的なことは承知いたしました。今回、主なものはエレベーターの設置ということですが、表題にもエレベーターの設置等とあります。

バリアフリー化を推進するにあたって、この他に大きなところで予算をかけてやらなければいけないことは何かありますか。

事務局(両角)： 当然、障がい者対応のバリアフリーの多目的トイレというものが考えられます。それぞれの学校には大体ついて、社会体育で使う体育館などにもそのような配慮がされている学校もあります。

ただし、学校は昔から階段が当たり前の作りになっておりますので、車椅子の方が移動するには、エレベーター以外に段差を解消するスロープなどにも必要になるかと思えます。

それから環境整備の部分でいけば、車でお越しいただいた方が降りやすい場所というものも必要になってくるかと思えます。

岩本教育長： 最近では、街灯がなくて階段等が怖いという話があって、早速各学校をお願いをして、出来る範囲でつけていただいております。そのようなこともバリアフリーに繋がっているかと思えます。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

岩本教育長： 岡谷市では、障害のあるなしにかかわらず、ともに学ぶことのできるインクルーシブ教育というものを本当に大切にして取り組んでいるところであります。

学校へのエレベーターの設置については、災害時の避難所や、或いは地域の皆さんへ学校を開放する時にも必要となるものでありますが、その反面、大変大きな予算が必要となりますので、本日説明のあった方針に基づき、計画的な整備を進めていきたいと思っております。

今回、岡谷田中小学校へのエレベーター設置については、特段の配慮をいただき、来年度の整備を予定しているところであります。

子どもたちだけではなく、地域の皆さんにも大いに学校を活用していただきたいという願いから、エレベーターというものは必要になると思っております。ただし、全ての学校に設置していくとなると、これは大変なことです。今後は学校の改修や大規模改修等の中で設置ができるかどうかを検討してまいりたいと思います。

議題の2につきましては、以上とさせていただきます。

それでは、この基本方針について、教育委員会として承認していただけるでしょうか。

<承認>

ありがとうございます。それでは承認ということをお願いいたします。議事は以上となりまして、続いて報告事項に入りたいと思います。

報告事項1「年度末・新年度の行事について」、事務局より説明をお願いします。

○報 告

1. 年度末・新年度の行事について（教育総務課）

<資料3に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： 何かご質問、ご意見はございますか。

高木教育委員： すいませんが、卒業式の日程を教えてください。

岩本教育長： 小学校が3月15日です。中学校が3月16日になります。また、出席をよろしくお願いいたします。その予定は2月定例教育委員会を出していただきます。

続きまして、報告事項2「令和5年 二十歳を祝う会について」、事務局より説明をお願いします。

2. 令和5年 二十歳を祝う会について（生涯学習課）

<資料4に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： 何かご質問、ご意見はございますか。よろしいでしょうか。

最後に【その他】であります。行事等について、事務局よりお願いいたします。

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

岩本教育長： 何か、ご質問等ございますか。教育委員の皆さんから何かありましたらどうぞ。

よろしいでしょうか。

それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局(両角)： 次回の定例教育委員会は、2月9日（木）午前9時30分～岡谷市役所2階 202会議室で予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

岩本教育長： それでは、以上で本日の定例教育委員会を終了いたします。
ありがとうございました。

16時05分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 5年 2月 9日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

草間吉幸

署 名 委 員

小平陽子

調 製 職 員

白上 淳